

取り崩し方がポイント!

資産を長持ちさせる 2つのアプローチ

CHECK!

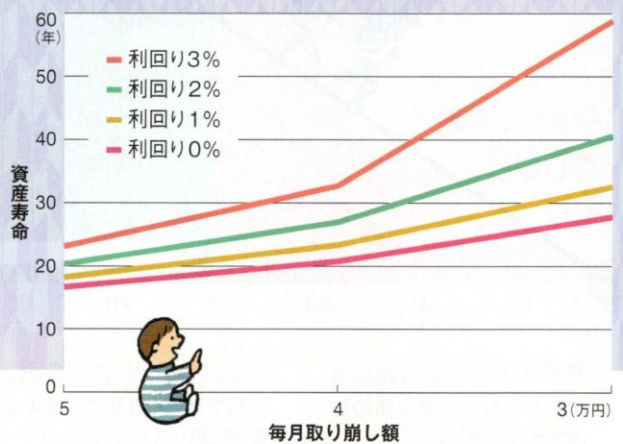
取り崩し額 × 運用利回りで 資産寿命はこう変わる!

1000万円を取り崩す場合の資産寿命

利回り	月5万円 取り崩し	月4万円 取り崩し	月3万円 取り崩し
0%	16年8カ月	20年10カ月	27年10カ月
1%	18年3カ月	23年5カ月	32年7カ月
2%	20年4カ月	27年	40年7カ月
3%	23年2カ月	32年9カ月	59年10カ月



取り崩し額が少ないほど運用の効果大



注: FP高橋義憲さんの試算による

長生き時代を迎え、リタイア後の生活が想定以上に長くなり、準備した老後資金が底を突いてしまいうリスクが意識されるようになってきた。そこで新たに重要視されているのが、「資産寿命を延ばす」こと。準備した老後資金をなるべく長く持ちさせるには、①取り崩す額を減らす②運用しながら取り崩すことで、資産の減るスピードを緩やかにする——の2つのアプローチがある。

「取り崩す額を減らすには、生活コストを見直し、支出を減らす工夫が有効」とファイナンシャルプランナーの高橋義憲さん。総務省の調査によると、年金暮らしの夫婦の平均的な生活費は月26万円、年金を主とする収入は21万円。つまり、月5万円の取り崩しが必要だ。しかし、「それはあくまで一つの目安。統計上の平均値にとらわれず、自分に必要な生活コストを算出して、それを1万円でも2万円でも削減できると良い」。

もう一つの方法が、資産を運用しながら取り崩すこと。1000万円を月5万円ずつ取り崩す場合、運用しない(利回り0%)と17年足らずで底を突くが、3%で運用し

ながら取り崩せば、資産寿命は23年に延びる。さらに、取り崩し額を抑えることができれば、運用による資産寿命延伸の効果は大きくなる(上の表参照)。

ただ、運用が上手くいかないこと逆に資産寿命を縮めてしまうリスクもある。現在の資産やもらえる年金、必要な老後資金の額を基に、運用の必要があるか、全資産のどの程度を運用に充てるかを判断したい」と高橋さんは言う。

人生100年時代の老後資金を考える上では、資産寿命を延ばすことと並んで、「終身でもらえる公的年金を繰下げ受給とすることで、年金額を増やす」という選択もある」と高橋さん。受給開始時期を65歳から70歳に繰下げれば、もらえる年金は42%増える。「65歳からの5年間の生活費に準備した老後資金を充て、70歳からは公的年金で暮らす」という考え方もある。現役世代は50歳になったら、60代以降の働き方や退職金、年金額をシミュレーションして、老後の資金計画を立てるといい」と話す。

次のページからは、長生きリスクに備える老後資金のつくり方や資産寿命を延ばすワザを見ていく。